

## 第2回豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会 会議録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和2年12月21日（月） 午後4時～午後5時
開催場所		509会議室
議 題		(1) 第1回 検討委員会 議事録について (2) 豊島区コミュニティ・スクール（学校運営協議会）モデル事業について (3) 事前アンケート結果について (4) 意見交換
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱第4条第1項第3号 各委員の所感・感想・意見等を忌憚なく発言して頂くため
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	柴田 彩千子（委員長）、山本 聖志、野村 友彦、 小林 豊茂、原 香織、清田 明、松浦 和代、青木 正典、 山本 道子、御代 恒、岡 将太、安藤 和子、高橋 京子
	そ の 他	教育施策推進担当課長、指導課長
	事 務 局	教育部庶務課教育施策推進グループ

# 審 議 経 過

No. 1

教育施策推進 担当課長	議第（１）～（３）について説明
委員長	事務局の説明について、質問・意見はあるか。
A 委員	資料 2 の議事内容について令和元年 3 月に学校の方から経営方針案を出してもらった。案が出されたことにより委員に考える時間があった。いきなり経営方針として出てきたものをその場で議論し承認するよりは、事前に示され修正ができるのでより丁寧であり、今後のコミュニティ・スクール（以下 CS という。）の進め方として良い方法だと思う。
委員長	学校運営協議会が単なる承認を得る機関とするのではなく、案の段階から住民の意見を反映するやり方が良かったという意見。 他に意見はあるか。
B 委員	A 委員からも資料 2 の内容に言及があったように、CS を行う上でキーワードとして重要なものが簡潔な表の中にちりばめられている。 活動経営の方針案を示す、それに対して委員の皆様から意見を頂く。当時、C 委員が多文化共生について入れるとありがたいと意見があった。学校として十分に考えて経営方針案を立てるが、いろいろな立場から意見を頂き、豊島区では多文化共生が外せないのではないかとの記述を、学校として入れ込んで修正したものを改めて提示することができ、承認を得たという形だった。最低限このプロセスがすべての CS において成立するとよい。それ以外にも池袋本町小学校の議事内容にある「報告」という言葉。何をやっているのかということ報告するということはこれまでもやってきたと思うが、より分かりやすくすることが求められてくる。ただただらとした「頑張っていますよ」という報告ではなく、エビデンスに基づいて、根拠データや資料を、膨大なものを読み解くことはなかなかできないと思うが参考に資するようなものが出てくる報告がすごく大事だと思う。 併せて評価という言葉が出てきている。当然のことながら積極的に関わっていただいた CS 委員には、学校の評価を行う主体的な役割を担ってもらうことが重要。今申しあげた方針案・承認・報告・評価というキーワードが年間スケジュールにきちんと落とし込まれていくと、今後取り組む学校にとって参考にしやすいのではないかと思う。
委員長	学校運営方針や取り組みの内容について委員がしっかりと議論できる状況・

B 委員	<p>素材を学校側が提供することが重要になると思う。 他に意見はあるか。</p> <p>もう一つ事務局に質問。論点整理の最後にその他 CS で自由に使える予算・活動場用との記述があるがこれはどういった意味合いか。 前回は予算はとても大事という話があったが、そのあたりがまだあまり明らかになっていないと思うので、考え方としてもし持っていたら予算・活動場所が何を指しているのか示してほしい。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>今回のアンケートでも自由に活動に使える予算というもの、協働で学校支援や地域との協働活動というようなところで自由に使える予算だったり、コーディネーターを設定するとしたらコーディネーターの方だったり。豊島区にはないが地域と学校の協働本部を設定している所では、その活動場所を学校に設けてやっていると聞いている。そういったところで、地域の方が CS の委員になることで立場が変わり責任が出てくるので、対等な立場でパーソナリティを持つには責任だけでなく、予算や場所を提供したほうがいいのではないかと意見があったので、論点に載せている。</p>
B 委員	<p>これから検討すべき論点ということか。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>そうである。論点整理に載せているのは事務局としての答えでなく、今後検討委員会で最終的なガイドラインを作成するうえで示したいものとして載せている。</p>
委員長	<p>地域学校協働活動をしていく場合には予算がないと個人の負担が大きくなってしまいますので、ある程度示されると議論が進みやすい。</p> <p>他に意見はあるか。事務局が資料 2 で研修後アンケートをまとめているが、2 枚目の学校を核に学校支援・地域貢献・学校運営の中で B 委員から豊島区の学校運営の姿について意見を頂いた。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>事前アンケートを拝見して、地域と学校の関係性についていろいろ意見をいただいたと思う。校長先生や副校長先生という管理職は地域のことを意識して学校運営を行われている。一方で教職員は地域のことを意識していない、学校運営協議会が何をしているのか分からない、との意見があり率直な意見だと思っている。地域の活動をしている中で教職員の方々との交流の場がどうなのか気になっている。実際に動くとなると教職員が動くことが多いと思う、そういったところで地域で活動される皆様から意見いただきたい。</p>

C 委員	<p>いつも朝のパトロールで立っていて、子供の表情や言葉で担任の先生に繋いだりしている。やはり先生方と接点を持たない限りコミュニケーションは生まれないと思っている。朝の活動の前に育成委員で、危険な場所を特に先生方に地域を回っていただきたいという話をした。通学路や子供が実際に遊んでいる場所を確認してもらうことで安心・安全な活動ができるのではないかと。今回も小学校の集団下校の際に、20 班中 17 班の朝のパトロールの支援の方に登校してもらい危険な場所や子供たちに言っていることを伝え、地域がどれだけ子供たちに目を注いでいるかを確認してもらった。地域でその方に会ったときに、先生方もこんなことがあったというような気軽な話し合いができた。私たちがこのコロナ禍でも顔を出しつつ連携を取れたらなどの思いで発言した。参観でも自分で健康を気を付けていながら、子供たちがどのような活動をしているかをオープンに「どうぞいらしてください」と言われると私たちが足が運びやすい。ぜひお声がけいただければ、地域のおばちゃん・おじちゃん優しいよということを見せてあげて、困ったことも話し合いができるような、子供たちの言葉を吸収できるような地域でありたい。</p>
委員長	<p>学校の先生方とコミュニケーションを気軽にする機会を作ってほしいという要望だったと思う。</p>
D 委員	<p>朋有小や池袋本町小の ISS で子供たちが各委員に分かれて安全・安心をどのように活動していくかというのを何年も見続けている。この CS が入ったときも子供たちが委員ごとに集まってボランティア活動等を全体で行っていくのはすごく大変と感じる。ISS の活動を行う委員の子たちも一緒に活動できると学校の負担も少ないと思う。</p> <p>孫が通う世田谷区の小学校では緑道に自分たちの手でチューリップと菜の花の種を植えた。そのように外に出てきた子供たちが何かやっているというのを地域で見られるというのを無理なく ISS の活動に組み込めるといい。ゴミゼロデーだけにみんなで掃除するのではなく、月に 1 回程度外の掃除をするなど、少しでも子どもたちが外に出ているのが見られるといい。色々な事件があり小学校は閉鎖的になっているので、地域に出るというのはそこら辺の矛盾が生じる。外に出るには学校の先生たちだけでは大変なのでお手伝いなどの活動をこまめにする。池袋本町小学校は老人施設が近くにあるため、たまに子供たちが歌を歌いに行くなど。核家族だと高齢者を見て、汚いや怖いという反応をする子もいるので、日頃から保育園、幼稚園に行くのも良いが、高齢施設に行くような活動が少しずつ始まると地域に学校が出ていると感じられるのではと思う。ただ学校がどのように時間を出すのかは課題。触れ合っていくというのが第一歩になっていいのではと思う。</p>

委員長	<p>学校を核とした地域づくりの話をお願いした。学校と普段関わらない地域の方を含めて、学校・子供たちと関わる、交流のきっかけ作りの要望。ただきっかけ・仕組みを作る上で、学校に過度に負担がかからないように体制を作るには先ほどの予算の話にも関わってくると思う。</p> <p>関連したことや他に意見はあるか。</p>
E 委員	<p>子どもたちが地域を知ることがとても大事だということで、小学校 2 年生がコーディネーターにコーディネートしてもらい初めて町探検の活動を行った。</p> <p>高齢者施設についても、本来であれば 6 年生が行って演奏を聴いてもらいたいが、コロナがあるので DVD に焼いてプレゼントしたらどうかと担任から意見が出ている。検討委員会で話し合う中で、学校が何を出来るか見えてきたと思う。特に小学校なので地域を知ることが本当に大切だと思っている。</p>
委員長	<p>学校のコロナ禍での地域交流の取り組みを紹介いただいた。</p>
F 委員	<p>区民ひろばと学校の関わりは、授業の中で敬老の集いに参加してもらったり、町探検だったり、中学生が高齢者を学校に招待するために区民ひろばを訪ねチラシを配ったりなど、授業の中で地域と交流の場が持てる方法がいくつかあると交流しやすい。</p> <p>学校運営連絡協議会でも町会長がいつも町会の行事にぜひ参加してほしいと言っているので、先生方から町会の行事に参加するよう働きかけてもらうなど、お互いの行事などに参加することで交流を始めるのがいいのではと思っている。</p>
委員長	<p>町会行事への参加について学校で促すことについて。池袋本町小学校の CS 研修でコミュニティカレンダーについて話があった。町会・学校・保育園等の行事を一覧化したものがあると協働で出来るものを探り、自分の予定とすり合わせて見ることができる。地域一体型のカレンダーというアイデアもあり参考になると思う。</p>
C 委員	<p>資料 2 の②モデル事業の実施状況で千登世橋中学校の防災をテーマに中学生が地域貢献していくビジョンについて。3 月 28 日に雑司が谷公園がオープンし、生徒会の役員にお声がけをしてかまどベンチを使って地域で何が出来るかを提案してもらった。みんな真剣に考え、子どもたちが喜ぶもの、公園をめぐる、公園を知ることが大事だということで、子供たちは自分の考えを持ち積極的に提案してくれた。地域としては行事を提案して、学校、先生方の</p>

G 委員	<p>協力いただき、地域も応援していく形がいいと思っている。</p> <p>先ほど花壇の話も合ったが、一角に生徒が関わる場所を設けると継続して連携ができてくるのではないかと思う。ボランティアについて話をさせていただいたが、ボランティアの有難さや地域に根差した活動、これから社会にでていく一歩手前ということで、地域の身近な人とどうやってコミュニケーションをとったら上手くいくのかを考えることもできる。年齢の近い若い学生も呼び、より一層効果が上がればと期待している。</p> <p>町会の話があったが、池袋本町小学校地域には8町会ありその中の1つの町会で役員をしている。お年寄りを2か月に1回お呼びしてお茶を出しなど、お年寄りを見守る事業をしており、4月には1年生になった子供たちも迎えている。現在はうちの町会だけだと思う。お年寄りと触れ合えるし、地域で1年生を迎えているので、それを全部の地域で行えるといいと考えている。</p> <p>以前の町会の運動会では区から60~70万の予算もらっていたが、予算の関係でカットされてしまった。現在は運動会に代わる活動として芋煮会をしている。各地域で特色がある地域一体となる行事をやれるとコミュニケーションが取れているところなどに繋がっていく。町会とも学校ともうまくいかななくてはいけない。コミュニケーションが取れるような状態に学校が入るとだいぶ違う。子供たちは先生がいると反応が違う。先生は休日にはなかなか参加できていないので、そういった所から子供たちの参加を促してほしい。</p>
委員長	<p>子供たちに社会力・コミュニケーション力をつけることもCSの付加価値として、地域の方がたくさん学校に入ることのメリットであるというお話だったと思う。</p>
H 委員	<p>CSの基本的機能として公募での教員募集がある。9月に東京都の教員異動要綱の提示があるが、私は校長として単に異動要綱を提示して異動するか、しないかを判断してもらうのではなく、異動要綱と同時に来年の経営方針、例えば、文部科学省や東京都の研究指定を受けてこういう研究をするなどの骨子を示し、異動希望の有無を判断するよう話している。</p> <p>教職員が来年度の校長の経営方針の骨子を十分に理解し、見通しをもって学校運営に参画していく決意と合わせて異動を考えられるようにしていけないといけない。</p> <p>今後、モデル事業から本格実施に移行していくようであれば、2学期には学校経営方針の骨子を示し、それに見合った公募で賛同する教員を取るようにしないといけない。地域と協働について理解している教員を集めないと、4月に地域の声に答えられない。特色のあるCS化ができず、形骸化しているの</p>

は、それが原因と考える。ゆくゆくは学校経営方針の提示を今より半年前倒しくらいになっていかないといけないのではないかと思う。

それから年度末には教育活動の経過報告の会が必要だとも思う。前任校では保護者、PTAと一緒に教育報告会を開催し、学校で取ったアンケートを基に今年度改善された点と来年度の課題を報告していた。これはCSになったら必置ではないかと思う。

もう一つは、地域の防災訓練をやろうと思うが課題がある。参加させたいと思っても日曜日にしか町会の防災訓練がない。学校は教育課程の中でやれば参加できる。地域に開かれた学校であると同時に学校に開かれた地域でないと教員を含め呼ぶことが難しい。

過去に一度だけ消防隊員から防災課職員になった方の力で、土曜日に町会の防災訓練を行うことができた。1年生が全員参加し、体育館での避難所づくり等ができた。地域の方が中学生の力をほめてくれた。

教育課程の外でやることでは教員に対する働きかけに限界がある。「地域に開かれた学校」づくりと同時に、地域からも歩み寄ってもらい「学校に開かれた地域」を作ってくれば、子供が優先、高齢者が優先ではなく、ギブアンドテイクできると思う。

防災訓練に中学生を参加させたい場合は、やってくれる町会があればそこには参加を促すことはできる。参加しない子供たちは、教育課程の中であれば学校で、事情により平日に実施できない町会でも、豊島区防災課やCS委員の協力を得て教育課程の中でやればいい。

教育課程外の日曜にやるのは、ボランティアなど子供の行動力を測るチャンスなのでそれも残さないといけないと思う。そうしないと、子供が自主的に動くかどうかを読み取れない。

ただ、成果が読み取れるには、かなり時間がかかる。10年前に防災教育を行った生徒が成人になり消防団に入る報告をしに来たと聞き、非常にうれしかったが、5～10年程度かかる。お互いに歩み寄らないとできない。地域にご協力いただくにはCS委員のお力をいただきたい。

また、今まで4月に実施していた家庭訪問（地域訪問）について、来年度は、どこの地域に子どもが住んでいるかではなく、地域に何があるのかというのを、場合によっては子供たちに教わりながら、教員が把握することを考えている。その分4月にできない面談は夏休み前の7月にまとめて全学年行う予定でいる。

学校と地域が歩み寄りながらやっているとよい。

あと事務局に一つだけ。教員は時期が来れば異動するが、委員の任期・任命・再選はどのようになるのか。

教育施策推進 担当課長	<p>委員の構成や選定は、第1回でK委員からもお話があった実働部隊との兼ね合いもある。</p> <p>任期について他自治体だと、再選は妨げないが任期は1年として毎回考えるタイミングがくるようにしている。委員の構成でも、自治会・町会の方のほか、渋谷区では弁護士を入れたり、他のところでは学識経験者を入れたりしているところもある。実働部隊については部会を作っているところもある。学校運営協議会というのは経営方針や方向性を示すところで、それに基づき実際に協働活動や防災・グリーンボランティア等の活動は部会に下ろして実働部隊はやっているところもある。</p> <p>本日も色々なご意見をいただき、誰かの過度な負担にならないようにしないと形骸化するのだろうと感じた。仕組みを作っていけないと持続可能な形にならない。学校運営協議会と実働部隊、学校と地域との役割分担をしっかりと決めていけないといけない。教育委員会としてこういった形でガイドラインを作ると示していきたい。委員の再選や選定方法について議論して示していないと思っている。</p>
H委員	<p>なぜ聞いたかという、学校運営連絡協議会の時にある町会長から、どうやったら学校運営連絡協議会の委員になれるのか。そこでないと意見が言えないのではないか。誰が委員を決めているのかと、校長からすると厳しい質問を受けた。教員は異動しても引き継ぎができる。しかし地域の委員は再選の意味や任期を考えていけると、立ち上げた1、2年は勢いづくだろうが、その先はどうしても形骸化してしまう。任期を基本的に2年で終わるとか、各町会から互選制で代表を出してもらわないと、町会から1名、民生委員から1名という任命方法だと他にやりたい方がいてもずっと同じ方がやってしまう可能性もある。その辺も考える必要がある。</p>
指導課長	<p>CS検討委員会と同時進行で学校評価の仕組みを少し修正した。地域に開かれたといったところで学校評価をどう考えていくのか。学校がどのように地域から見られているのか、地域に支援してもらっていることはよくわかっているが、地域のニーズを校長として聞いているのかということをもっと開いたほうがいいだろうということで、学校評価の仕組みをPTAにも入ってもらい学校評価の検討委員会を行っている。来年度も検討会を行う予定。H委員がおっしゃった学校運営連絡協議会と学校運営協議会がもっていることにレベルの差があるにしても、地域の方たちの声をどうやって学校運営に使っていくかという組織をつくる大事な母体なので、来年度の学校評価検討委員会の中で、学校運営連絡協議会の在り方についても検討をしていく。</p> <p>CSをこれから全校化するのか、他自治体のように拠点でじっくり時間をかけ</p>



委員長	<p>てやっていくのか、豊島区の姿をどうしていくのかを含め両輪でやっている。CS 検討委員会は教育施策推進担当課、学校評価のことについては指導課でやっている。</p> <p>いずれにしても地域の声をしっかりと校長先生が代表となって聞いていくシステムを作っているの、来年度以降もまたご意見を頂きながらということで指導課長も CS 検討委員会に参加しているという状況。</p> <p>2 学期頃に翌年度の方針を地域側も学校側もお互いに話し合う体制がないと次年度 CS がうまく進まない。PDCA のサイクルを豊島区型のものを作るといのもこれからの方策として講じられる一つの手段。教育課程に町会の行事として子供たちが学ぶことができるものを含める、例えば土曜日に登校日に含めようとする前年度にすり合わせをする必要があるということで、CS のしくみができていると学校運営協議会で協議することが可能になるのでそういう体制作りも必要ではないかと思う。他に意見はあるか。</p>
B 委員	<p>9 月に学校経営方針の骨子が示せればということで、中長期的な展望はすごく大事なこと。</p> <p>事前アンケートの中にもメリットは何かという部分があり、たくさん意見いただいております、本来であれば検討委員会なので検討しなくてはいけない部分ではあるが、あとでお読みくださいという形になっている。最初このアンケートが来た時にずいぶんとざっくりとしたアンケートだなと思ったが、皆さんたくさん意見を書いている。これを単なる今日の記録にはしてはいけない。次回に向けて、みんながこれを読み込んできて、大事なところをピックアップする作業をしないとみんなの能力が埋もれてしまう。それはもったいないことだと思う。</p> <p>9 月に骨子が示されればということで、学校運営連絡協議会と CS の違い・メリットの部分に、実際に私が CS の学校にいたときに、委員長が委員に向けて学校が助かるような人事に対する具申権があると言っていた。要は教育委員会に対して意見を述べるができること。これは CS のメリット・特色であると謳われているはずだが、今の資料では取り上げられていない。CS に手を挙げたときに何が変わるのか、いいことがあるのか、と言ったときに、この人事に対して意見を言うことができるというのはものすごいインセンティブと言っている。受けることによって得られるところのメリットだと思う。ただ、どういう希望が人事に対して上がってくるかという、部活関係が多い。併せて学力向上、地域防災であれば防災の要となる教員。これが東京都の人事システムと必ずしも符合しない場合もある。少なくとも CS のメリットとして謳われている以上は検討していく余地はある。叶うか叶わないかは</p>

	<p>努力しなければ何も言えない。手を挙げて CS になったときは、そこから出てくるこの学校をこういう風にしたいという中長期的な展望に基づいて、こういう先生に来てほしいというのは、校長だけでなく CS 委員会として出した意見については、100%は難しいのは分かっているが、可能な限り教育委員会は応えるようにすることで、CS に取り組む気持ちになっていく。論点整理の中に改めて組み込んでほしい。実現可能かどうかは、よく研究する必要があるが大事なポイントだと思っている。</p> <p>繰り返しになるが、事前アンケートは今日の記録だけにとどめない方がいい。事務局は、最大公約数をこの中から見出すことはできたのか。それはこれからやるのか。</p>
<p>教育施策推進 担当課長</p>	<p>最初にアンケートをどう作るかというのはすごく迷った。もっと簡単にかなり論点を明確にして答えていただくアンケートも考えたが、そうするとあまりにも事務局の恣意的な部分が出てしまうということで、今回のような形のアンケートとなった。たくさん回答をいただき、ありがたいと思っている。最終的に集まったのが先週の中頃ということもあり、そこから集約ということもできなかった。次回は今の議論をもっと深堀したいとご意見を聞いて思った。まだ発言していない方もいるので、もう一度今後どうするかということだったり、現状のご意見だったりを深めていきたい。その時には皆さんにもお読みいただくこともお願いしたい、もう少し最大公約数というような形で資料の整理もしていきたい。</p> <p>また、人事のところも含めて論点整理ということで、先ほど H 委員からあったが、今はモデル事業だが教育委員会の規則として定めてやると、国の求めている CS になる。そうなると東京都の公募制の人事異動ができる。そこは大変なメリットだろうと思う。また委員の皆様から学校経営方針のためにこういう先生が欲しいという意見をいただくルート・教育委員会のシステムを考えていかなければいけないと思うので、論点整理に加える。</p>
<p>委員長</p>	<p>アンケートの内容を次回どういうメリットが豊島区の CS にあるのかなど、アンケートの結果を深堀していく時間が必要。アンケートは次回までに各委員にお読みいただいて。</p>
<p>教育施策推進 担当課長</p>	<p>できればお読みいただきたい。分かりやすいまとめた資料も作成する。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に意見はあるか。</p>

I 委員	<p>豊島区は非常に地域性が強く、千差万別。村社会で村同士が競い合っている。その子供たちはこの学校と決まっていた。190 町会くらいあり町会ごとに行事を行っている。</p> <p>学校の役員決め等、今は非常に苦勞していると思うが、私たちの時はやってくれる人がいっぱいいた。それがなぜかと考えると地域のお祭り等の時に手伝いに来てくれる人が結構いて、そこで子供たち同士が地域で団結してというのが日常で行われていた。</p> <p>良いか悪いか正しいか間違っているか分からないが、私が現役の PTA の時は行事があると町会からお祝い金を持って行っていた。そうすると先生方がちょっとした食べ物やビールを用意していて、そこで地域の 20 人くらいの町会長や顧問が地域のことについて情報交換したり、先生方も入りお酒を飲みながら交流していた。ある時から学校でお酒を飲むことはあってはならないとなり中止になった。町会はお祝い金を予算化して準備していたが、持っていても受け取らないとなり、町会の人ほとんど行事に参加しなくなった。一杯飲みながらざっくばらんに今度こんなことがあって人を集めてほしいとか、地域の人に協力してほしいということその場でお願いされていた。地域のことが大好きな校長先生がいて、地域のイベントに必ず参加しお酒を飲んでいて。そういう人間と人間の付き合い、会議も大事だがそこではあの人のためにやってやろうとはならない。人間同士というのは、自分の弱みを見せて頼むよということみんなが動く。そういうところが会議にない良さ。そこを子供たちの教育に生かしていければ。</p> <p>今の町会の活動では、若いお父さんお母さんはあまり協力的でない。昔は学校の役員をやっている人間性が分かる人を一本釣りして育成委員や民生委員、町会の役員などをお願いしていた。そういう方が見当たらなくなった。その辺を地域に開かれた学校を通じてお互いに協力し合うのが大事。</p>
J 委員	<p>若いお父さんたちが入って来られないのは、入り方が分からないという声ほとんど。PTA 会長をやっているので、運動会の時などに仲のいいお父さんたちを紹介している。小学校ではおやじの会を作った。活動としてはコミュニケーションとして夜飲むだけだが、そこからだいぶ広がってきた。中学校でも同じような活動をしているが今年は 1 回もできていない。PTA のお母さんたちも、中学校は 3 年間だけなのであまり密に付き合わない。今年はそういう会をいっぱい開こうと話していたが、1 回も実現できていない。今年はコロナでどうしても輪を広げられないというのが現状。</p>
K 委員	<p>こっちの出身ではなく、大学の時に地方からこっちに來た。マンションがどンドン立っていて、親がこっちにいない保護者が多い。</p>

	<p>地域に入るときにどう思うかと言うと、何を手伝われるか分からないというのがある。田舎の方はもっと地域に根付いており、ごみ掃除やドブ掃除等いろいろやらされる。そのイメージでこっちに来ると町会で何をやればいいのかというのが実際問題分からない保護者が多い。そうは言いながらも地域にいる以上はそこと接触をしたいという思いも若干ある。解決法ではないが、町会に入ることによって何ができて何を手伝うのかしっかり示されるとよい。何も無いよと言われると、逆に何も無いのかなと思う、それもそれで本当かなと思う。正直にこういうのがあって子供にとってもプラスになるのでお手伝いしませんかということから始まっていくと町会に入る保護者も多いのではないかと思う。</p> <p>先ほど実働部隊の話があって、現状難しい問題が PTA はほぼお母さんの集まり。学校によって違うが、今の PTA の活動はなるべく小さくしようという流れがある。こういうことをやるにあたって PTA に手伝ってもらおうとすると結構な抵抗がある。お母さんが多いから抵抗がある。逆に言うと PTA の枠にとらわれず、CS のイベントに参加するお父さんお母さんを募集することで、お父さんが参加するのは地域にとってもプラスになること。</p> <p>あえて PTA にこだわる必要はないと思う。子供たちが喜んで参加すれば保護者は来る。保護者が参加することで地域と接触して楽しく顔見知りになる。顔見知りになれば地域の方が外に行っても知っている方だなどと思って一体感が出る。逆に PTA に拘らなくてもこういったメンバーの時でも、PTA 会長が出ることはあるだろうが、公募などで保護者の中から 2 人取るでもいいんじゃないかと思う。そうすることで距離が縮まるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>保護者の方にも旧住人の方から新来住者型の住人の方がいらして、この CS が新しい住民の方と例えば町会を結ぶような接点となりうるという意見だった。また PTA をどのように学校運営協議会に位置付けるかも今後の課題として認識した。</p>
L 委員	<p>委員の皆さんの意見を聞いていろんな立場、方向で豊島区型の CS が出来上がっていくのではないかと思った。</p> <p>先ほど I 委員の話にあったように、若い頃は本当にそのような所で育てていただいて、そうすると地域の方にも自然に名前を憶えさせていただいて、声を掛けてくださる、それから名前でご呼んでくださる、当然のことながら子供たちにも色々な面で声を掛けてくださるというところで、いろんな面でプラス方向に膨らんでいくという体験を実感している。</p> <p>そういう面でも、K 委員が話していた学校運営協議会がそういうような町会とのコラボ、PTA とのコラボであったり、そしてその大前提には学校の経営方</p>

委員長	<p>針があって、皆さんのいろんな立場で同じことをやるにしても太くなっていく、理解度が高まっていくのではないか。そうすると、学校で少し行き詰っている今までやってきたが活動も、また違う可能性が出てくるのではないか。いろんな方向から力を借りて伝統が膨らんでいく。</p> <p>実際にどのようなことを取り組んでいくかというのは、校長先生の学校経営方針に関わってくるが、地域で今までどんなことをやってきたかというのが学校の特色であってそれはそれで伸ばしていくということなので中身はそれぞれの学校で違っていく。</p> <p>H 委員からあった委員の選定については、ある程度のルール作りをすることによって全校化が図られる。</p> <p>本校では保健に力を入れているので、アンケートでは保健をメインにした活動も入れるとよいのではということを書いた。</p> <p>ご意見ありがとうございました。本日はここまでとします。 次回は、皆様も事前アンケートを読み込んで参加をお願いいたします。</p>
-----	--

会議の結果	事務局からの説明について各委員からご意見を頂いた。
提出された資料等	<p>(資料1) 第1回検討委員会 議事録</p> <p>(資料2) 豊島区コミュニティ・スクール(学校運営協議会)モデル事業について</p> <p>(資料3) 事前アンケート結果について</p>
その他	